

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	272501008		
法人名	社会福祉法人福祉の里		
事業所名	グループホームのへじ		
所在地 (電話番号)	〒039-3129 青森県上北郡野辺地町餅栗川原3 - 2 (電 話) 0175-65-2226		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 2日	評価確定日	平成 19年 11月 14日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 210 円 昼食 260 円	夕食 310 円 おやつ 円	
	または1日当たり	780円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立野辺地病院・川上クリニック・戸館内科整形外科医院・平内中央病院・横浜診療所
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設の地域交流スペースでの催し物参加やデイサービスへも自由に行き来することができ、デイの利用者も気軽に遊びに来られ、利用者の楽しみになっている。職員も理念を念頭に置き、優しくさりげなく利用者に接しており共に笑顔があふれていた。利用者の帰りたい等の希望があれば直ぐに家族や近隣者に連絡をとり対応しており、個々の思いへの支援も出来ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 共有空間の装飾には落ち着いた絵画や思い出のスナップ写真を掲示し会話につなげており、ゆったりと落ち着いた時間が流れている雰囲気が伺われた。玄関については交流センター側を利用したが、ホームに直接つながる側も訪問者が利用できるようにされても問題はないと思われる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で取り組み、改善点も共有して検討され、日々の支援ができてい る。今後も更なる取り組みに期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今後も入所者主体のケアの実状や課題等を報告し、共にサービスの向上に 取り組まれる事に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 家族面会時の他にも、毎月個々の日々の暮らしぶりの現況を連絡し、意見 を取り入れての支援ができてい
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣に気軽に買い物や外出できる立地条件であるが、ホームがセンターの二 階に位置しており、外部者が気軽に入出入りする事が少ない。外出したり、祭 りなどの行事へ積極的に参加されているので、今後は自由に入出入りできる事 の理解を得、近隣住民との交流関係が深められるような更なる体制作りが望ま れる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居されている方への接し方・職員の思いが理念に掲げられている。また、理念の他に年間目標にも地域住民としての取り組みが含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ネームプレートの裏や事務室内に掲示され、日々内容を確認している。理念を共有し職員全員が周知し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者が地域の催事などに関わっており、催し物があれば利用者と共に積極的に参加している。また、普段から買い物などに出掛け地域住民と交流が図られている。	○	ホームが施設2階にあることから、外部者が気軽に入入りする事は少ない。近隣住民との交流関係が深まる体制作りが望まれる。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成時は、全職員の意見を取り入れ作成されている。また、外部評価後もその内容を共有し、改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	発足して間もないが、民生委員・地域包括職員などが参加し意見交換がされており、サービスの向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町への働きかけは、運営推進会議内にとどまっている。	○	現在実施されている会議内での働き掛けにとどまらず、積極的に町役場などへ働きかけ、ホームの考え方・取り組み課題などを伝え一緒に解決し取り組んで行く事が期待される。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者はいないが、いつでも対応できるよう施設内研修を設け勉強されている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月施設内研修を開催し話し合いの場を設けている。また、管理者からも職員に伝え周知徹底されている。	○	虐待に関する施設内研修の記録が残されていないため、できれば研修内容と参加者の名簿など記録された資料を保存することが望ましい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時以外にも、状態変化がみられる時や面会時など必要な時に再度説明されている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成し、担当者からの一言を載せ、家族に郵送して。また、金銭管理についても便りの裏面に収納帳を印刷し報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にて随時近況を報告し、家族の意見を確認している。また、意見などが出された時は指定用紙に記録し全職員に報告して迅速に解決されている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への精神的なダメージを防ぐためにも、人事異動は最小限に控えている。また、管理者からの働きかけで運営者にも理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内研修が行われているため、参加スキルアップに繋げている。参加できなかった職員にも資料を渡し、伝達している。また、外部研修にも積極的に参加し、その内容を職員に報告し現場に反映されている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ積極的に参加し、交流の機会を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員同士で情報共有をし、他者との生活に馴染める環境作りを検討し受け入れを行っている。又、家族と細かな情報交換を行い安心して生活できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的なケアではなく、できる限り利用者と一緒に過ごし、日常会話から悩みや希望などを傾聴し対応している。また、日常生活においても一緒に作業等を行う事で支えあう関係作りがなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において、利用者の会話から困っている事や希望をくみ取り対応している。職員対応で困難な場合は家族にも協力を求め本人本位で検討し解決している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時は、家族・本人の要望などを踏まえ、ケースカンファレンスを行い作成している。遠方の家族には、電話などで意見交換を図り作成されている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間満了時、または状態の変化に応じて計画内容が見直されている。検討する際は、本人・家族の意見をくみ取り計画されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望や状況に応じて通院や送迎等、必要な支援が柔軟に行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を利用しており、定期的に受診し状態報告している。受診介助も家族が行えない時はホーム職員で対応しており、送迎も家族の要望があれば対応している。身体状況によって受診できない時も医師の協力を得られるような体制を検討中である。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、家族と相談し希望があれば継続してホームで生活できるよう受け入れ態勢ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は事務室内の棚に保管・管理されている。また、利用者への声掛けは人権を損なわないよう対応できている。間違った対応をしている時があれば、職員間・管理者から注意を促し改善されている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の場面毎に利用者の要望に沿った対応がなされている。時間がかかる事でも、その方の動作を見守りながら行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○ 食事を楽しむことのできる支援			
25	51	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し調理されている。準備作業も入居者の日常生活動作に合わせて可能な限り一緒に行っている。		
		○ 入浴を楽しむことができる支援			
26	54	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、温泉を使用しているため配管・湯圧の関係上デイスサービスが午前中を使用している。そのため、ホームは午後から入浴を実施している。午後からであれば、希望の時間に対応しており、夜間浴も希望があれば対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
27	56	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や得意な事、楽しみとしていた事を情報収集し、日常生活に反映されている。また、ホーム利用者全員でバスハイクや町の催事に出掛け、気分転換が図れるよう計画されている。		
		○ 日常的な外出支援			
28	58	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用雑貨や嗜好品などの買い物は、個々に必要な都度買い物に出掛けている。ホーム専用車はないが、法人の車両を随時使用している。畑作業にも取り組んでおり、利用者の希望で毎日出掛け手入れしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルが作成されており、必要時管理者から職員へ口頭で説明し理解を得ている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム入り口は夜間21:00～7:00まで施錠している。日中帯は戸を開け自由に出入りできているが、外に繋がる玄関は他事業所と共同のため、開閉時間が法人で取り決めされている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民への働きかけは行われていないが、法人内で定期的に避難訓練を実施している。	○	災害時に地域住民の協力が得られるよう働きかけ、体制作りをする事が望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録しトータル摂取量を把握している。また、個々の嗜好や食事形態も把握し食べやすい工夫がなされている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成されており、職員も目を通し取り組まれている。また床などは毎日ハイター拭きを実施し感染を予防している。職員の制服もホーム内で洗濯し持ち出さない工夫がされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の照明はまぶしすぎず温かい印象を受ける。共有スペースに観葉植物や絵画など掲示され、家具も木製を使用しているため家庭的で落ち着いた雰囲気となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には使い慣れた家具などを持参している。また、備え付けの家具が木製で家庭的な印象を受ける。利用者の写真や折り紙細工などの作品も壁に飾られ、落ち着いた雰囲気作りがなされている。		

 は、重点項目。